

世の中に必要とされる人間に

教頭 佐々木 朗

世の中には三種類の人間がいるという話を聞いたことがあります、それがずっと心に残っています。「世の中に必要とされる人間」、「世の中にいない方がいい人間」、「いてもいなくてもどっちでもいい人間」です。

学習発表会の記事を書きながら、本校に通う一人一人が、「若松にとって必要な児童」だということを実感しました。一人一人が、立派に役目を果たし、成長することができました。小さい学校ゆえの教育活動ができたと自負することができます。

子どもたちには、あれもこれもできる人間になるより、一つでもいいから、他の子と違った輝きをするものを身につけるよう励ましています。それと誰にでも分け隔てなく接することができる優しさをもってほしいと話しています。大人になって、「あの人には是非、うちの会社に来てほしい。」「私たちのサークルと一緒に活動したい。」「あの人になら、私の悩みを相談してみたい。」と言われるような人に育ててほしいと思っています。

親子関係も教師と児童の関係も「愛」によって結びついています。申し上げるまでもなく、子どもたちから、「いない方がいい親、教師」と彼らの心の中で烙印を押されることのないよう、一日一日、一言一言を大切に育てていきたいものですね。